

資料3-8

企画専門委員会現地ヒアリング（東部）資料

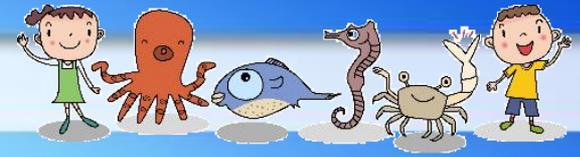
つなげよう！わたしたちの 「大阪湾見守りネットワーク」

大阪湾見守りネット 代表 田中正視

平成24年2月23日(木)



1. 大阪湾見守りネットとは？



- H17.2.26に開催した「ほっといたらあかんやん！大阪湾フォーラム」（主催：国土交通省近畿地方整備局）に集まったメンバーを中心に大阪湾に関心のある個人や団体からなる、ゆるやかなネットワークで、H17.11.12に設立しました。
- 大阪湾という広域で、大阪湾再生をミッションとし、かつ大阪湾に関わる官民を問わない個人や団体をメンバーとする（登録も自由）、より公益性の高いネットワークです。
- 特に、多様な主体がメンバーになることから、大阪湾再生に向けた情報交換や共有の場、相互理解の場、人間関係形成の場としての活用が期待されます。
- 現在、大阪湾見守りネットは、10名程度の会員からなる「運営委員会」を設置し、会員登録や情報発信・交流、行事などの企画・運営を行っています。

■大阪湾見守りネットがめざすもの

○見守りネットは、魅力と活力のある、美しい大阪湾の再生をめざします

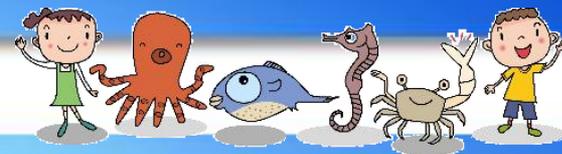
○見守りネットは、大阪湾の環境再生を願う個人と関係団体によるゆるやかな交流と連携をめざします

○見守りネットは、「楽しく面白く」を基本に、自発的で自立的な取り組みを進めます

○見守りネットは、地域の市民団体、小中高校と大学、漁業関係者、企業、行政機関などと幅広い協働の取り組みを進めます

※「大阪湾見守りネット」設立趣意書から抜粋

(1) 見守りネットの会員及び運営体制



■大阪湾見守りネットの会員

- 現在、市民、NPO、博物館、試験・研究機関、大学、民間企業、行政機関など、約170の個人や団体が登録しています。（平成24年1月現在）

■大阪湾見守りネット運営委員会

- 見守りネットの運営組織として「大阪湾見守りネット運営委員会」を設置しています。

運営委員会のメンバー(平成24年1月現在)

※50音順

氏名	所属	備考
上甫木 昭春	大阪府立大学大学院生命環境科学研究科	副代表（事業担当）
佐名川 洋之	NPO法人 こども環境活動支援協会	
杉原 五郎	アルパック (株)地域計画建築研究所	
田中 正視	男里川の干潟を守る会	代表
中西 敬	NPO法人 人と自然とまちづくりと	事務局
鍋島 靖信	大阪府立環境農林水産総合研究所	
橋本 夏次	近木川流域自然大学研究会	
本多 俊之	浜寺公園自然の会	事務局
村瀬 りい子	西淀自然文化協会	
山西 良平	大阪市立自然史博物館	副代表（会計担当）、事務局
來田 仁成	NPO法人 釣り文化協会	副代表（PR・渉外担当）

<事務局> 〒546-0034 大阪市自然史博物館内 大阪湾見守りネット事務局
山西、本多、中西、岩井、村上、松岡 E-mail : osakawannet@yahoo.co.jp

(2) 見守りネットがめざす大阪湾型プラットフォーム

①情報交流
(フォーラム等)

②広域連携の取組
(モリツグ等)

③先導的な取組
(講習等)

④相互連携
の取組

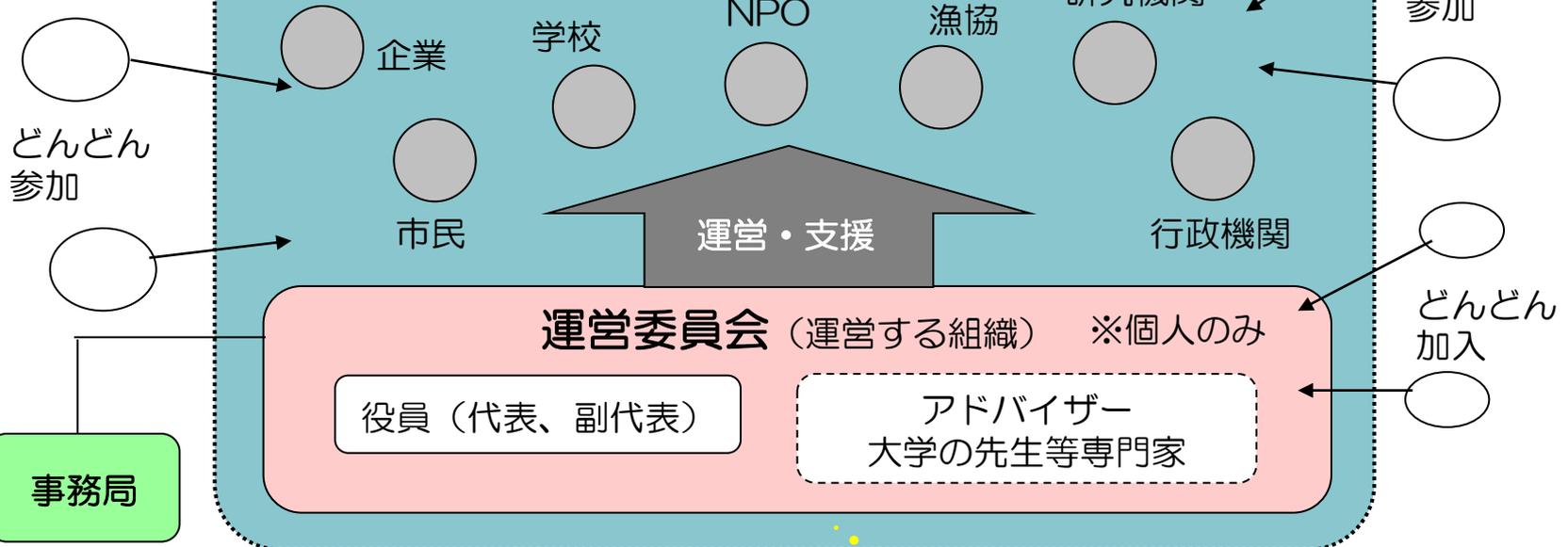
⑤市民の啓発
と参画促進

◆会員の特典

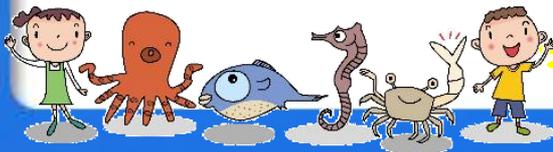
- ・MLの利用
- ・取組の企画・広報
- ・取組への参加

大阪湾見守りネット (登録者による場)

※個人・団体どちらでも



この指と~まれ! の呼びかけで取組を実施!!



2. 事業内容



(1) 情報発信・交流

- メーリングリストによる日々の情報交換（平成17年5月開設、年間500件以上のやりとり）
- 大阪湾見守りネット総会の開催とそれに伴う講演会等（年1回）

(2) フォーラムの開催

- 年1回フォーラムを開催（平成17年～平成23年の2～3月、これまでに7回開催）

(3) 調査・研修会の開催

- 帆船「あこがれ」、成ヶ島などでの研修会の開催（平成19年11月、平成21年4月）
- 成ヶ島アマモ場調査への参加
- （近畿地方環境事務所が実施した調査の補足調査、平成21年7月）
- フィッシングショーOSAKA2012での「チリモン」の実施（平成24年2月）

(4) 行事やイベントへの参加

- 大阪湾生き物一斉調査への参加（平成20年度の第1回目から多くの団体が参加）
- 大阪湾環境保全協議会の総会への講師派遣
- 大阪湾再生シンポジウム（パネル展示）など大阪湾に関する取り組みへの参加 など

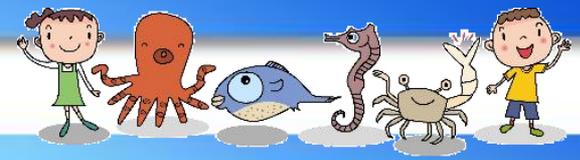
(5) その他

- 「平成19年度日本港湾協会企画賞」を受賞
- （大阪湾見守りネットと国土交通省神戸港湾空港技術調査事務所が共同で受賞）
- 「魚庭の海」賞（ネットワーク部門）の受賞（平成21年度）

(1) これまでの主な活動

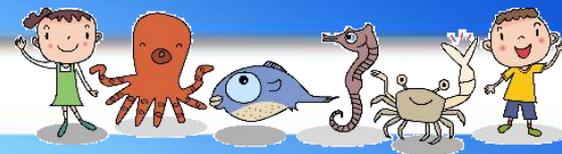


日程	取組等の名称	内容等
H 17	2/26 第1回大阪湾フォーラム	会 場：大阪市立自然史博物館 テーマ：つなげよう！わたしたちの「大阪湾見守りネットワーク」
	11/12 『大阪湾見守りネット』の設立総会	会場：WTC17F（大阪南港） ミニ講演：○水中カメラが捉えた大阪湾／城者氏 ○子どもの頃のお大阪湾／来田氏
H 18	2/26 第2回大阪湾フォーラム	会 場：須磨水族園 テーマ：大阪湾まるごと水族園
	11/25 平成18年度総会	会 場：関空交流館（貝塚市） 現地見学：近木川汽水ワンド 話題提供：○ここまでわかった大阪湾のスナメリ／近藤氏 ○日本一汚い川からのまちづくり／橋本氏
H 19	3/4 第3回大阪湾フォーラム	会 場：きしわだ自然資料館、岸和田市立公民館 テーマ：ちりもん！海もん！宝もん！
	10/6 平成19年度総会 （大阪府立大学の現代GPの取り組みにあわせて開催）	会 場：大阪府立大学（堺市） 内 容：大阪湾の現状についての研究報告（細田氏、鍋島氏、押田氏）、 大阪湾円地域での活動報告（田中代表、関藤氏、河原氏、松岡）、総合討論
	11/17 研修会	会 場：大阪湾上（大阪南港←→明石海峡周辺） テーマ：帆船「あこがれ」で大阪湾沿岸を海上から見る 内 容：大阪湾解説、水質分析、セイルトレーニング体験など
	12/15 大阪湾再生シンポジウム	ポスターセッションへの参加



	日程	取組等の名称	内容等
H 20	3/8	第4回大阪湾フォーラム	会 場：御前浜・香櫛園浜、西宮浜産業交流会館等 テーマ：西宮で貝・会・海（かい・かい・かい）
	3/25	『大阪湾の自然と再生』 発行 （上甫木 昭春著）	総会と合同開催した堺・南大阪地域学フォーラム平成19年度大会 「地域の明日を考える」の分科会で報告・議論された内容を基に作成
	5/10	エコツアー後援	メンバーが企画した「エコツアー in 成ヶ島」を後援
		G8環境大臣会合プレフォーラム in 淡路	ポスターセッションへの参加
	6/21	H20大阪湾生きもの一斉調査	大阪湾再生連絡会が実施した一斉調査に多数が参加
	11/15	平成20年度総会 （かんさい自然フェスタ2008にあわせて開催）	会 場：大阪市立自然史博物館（大阪市） 内 容：テーマ別シンポジウム「大阪湾の自然再生をめざす ネットワークの方向性を考える」
H 21	2/28	第5回大阪湾フォーラム	会 場：海遊館（大阪市） テーマ：「今日は大阪湾の日！」
	4/25～ 26	研修会（合宿）	会 場：成ヶ島（洲本市） テーマ：生き物一斉調査強化合宿 海モンに強くなろう de 成ヶ島 内 容：成ヶ島、熊田海岸の生き物調査、一斉調査の事前研修会など
	5/9	H21大阪湾生きもの一斉調査	大阪湾再生連絡会が実施した一斉調査に多数が参加
	7/25～ 26	成ヶ島アマモ場調査	近畿地方環境事務所主催の成ヶ島アマモ場調査における補足調査に専門家として参加
H 22	3/6	第6回大阪湾フォーラム	会 場：おおさかATCグリーンエコプラザ、大阪南港野鳥園 テーマ：「はばたく！あしたの海岸線」
	5/29	H22大阪湾生きもの一斉調査	大阪湾再生連絡会が実施した一斉調査に多数が参加
H 23	2/26	第7回大阪湾フォーラム	会 場：関西国際空港、りんくう公園 テーマ：「人工島から考える陸と海のつながり」
	6/4	H23大阪湾生きもの一斉調査	大阪湾再生連絡会が実施した一斉調査に多数が参加
H 24	3/4 （予定）	第8回大阪湾フォーラム	会 場：神戸市立須磨海浜水族園 テーマ：「人工島から考える陸と海のつながり」
	6/4（予）	H24大阪湾生きもの一斉調査	大阪湾再生連絡会が実施する一斉調査に多数が参加予定

(2) 情報発信



■平成22年度におけるメーリングリストでの情報交換

平成22年度の情報交換件数は581件（過去最高）でした。

（主なやりとり）

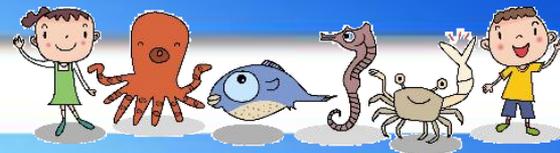
- ・大阪湾フォーラムについて（2月）
- ・堺2区の取り組みについて（6月／9月／11月／2月など）
- ・「はちけんや」での企画展について（7月～8月）
- ・「日本産魚類の稚魚期の研究 第1集」の購入について（6～7月）
- ・観察ケースの購入について（3月）
- ・各種イベントの開催案内 など

ただのイベント開催情報の発信にとどまらず、貴重な書籍や観察ケースの入手などの連絡にも使われるように進化している

メーリングリストでの情報交換件数（平成22年度）

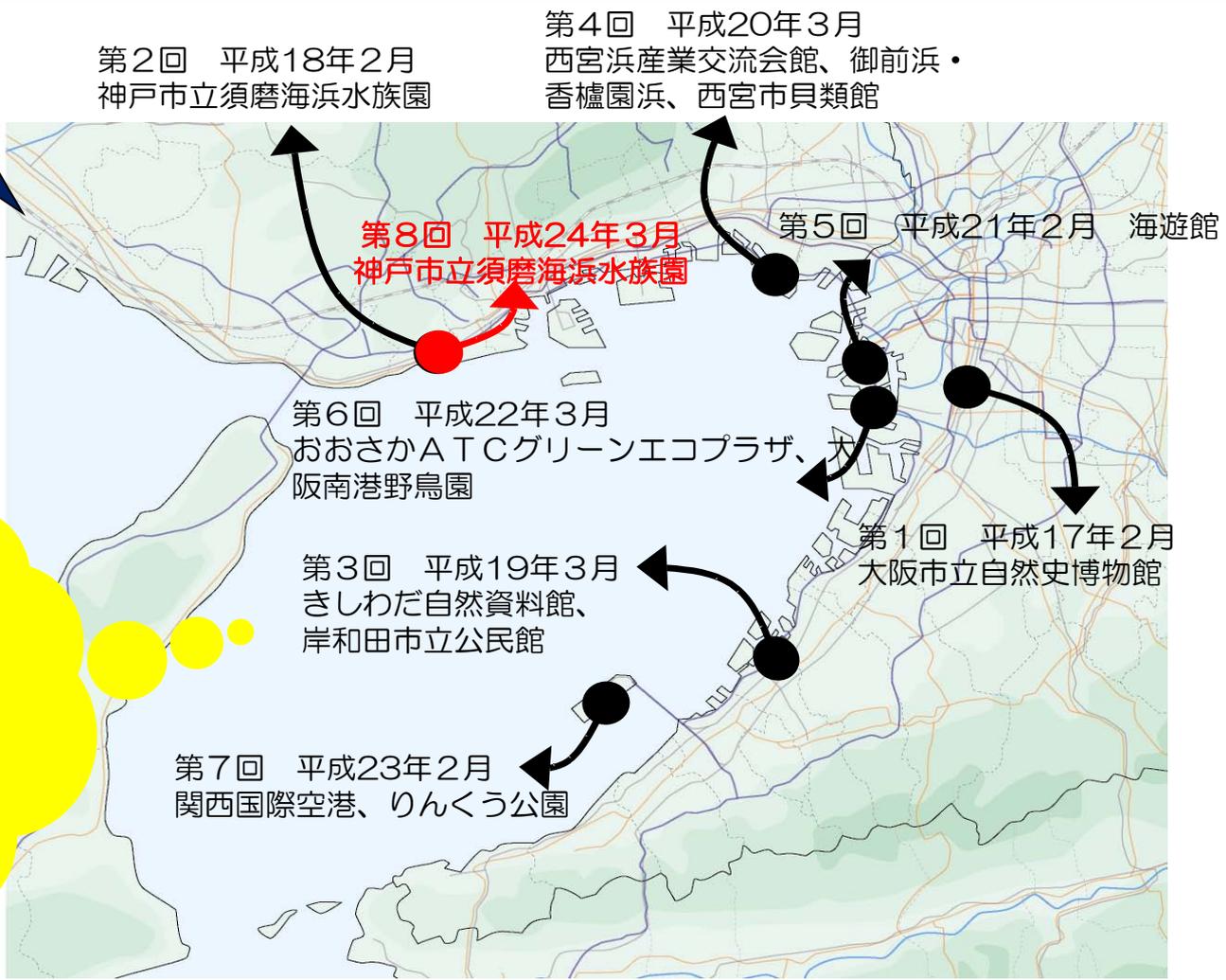
年度/月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
平成22	26	11	70	45	49	60	44	12	29	27	141	67	581
平成21	14	8	13	14	6	12	12	5	13	23	16	25	161
平成20	14	15	8	7	30	27	9	14	5	17	31	16	193
平成19	13	17	13	9	11	22	30	14	12	18	14	21	194
平成18	2	5	5	7	19	14	17	19	17	18	75	14	212
平成17	—	1	1	14	7	7	9	2	4	8	22	14	89

(3) フォーラムの開催



大阪湾沿岸の格地で開催している

開催地の施設や活動団体を中心とした実行委員会を設置して運営するとともに、地元のイベントなどとの共同開催を実施している



■第7回 ほっといたらあかんやん！ 大阪湾フォーラム の様子

◎テーマ：人工島から考える陸と海のつながり

◎日時：平成23年2月26日（土）10:00～17:15

◎会場：関西国際空港、りんくう公園

◎主催：大阪湾見守りネット、大阪湾環境保全協議会、
国土交通省近畿地方整備局港湾空港部

◎協賛：大阪湾広域臨海環境整備センター

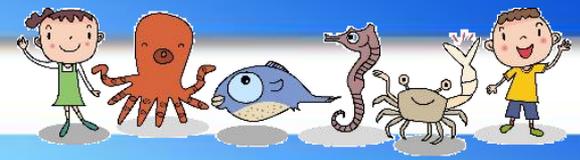
◎協力：関西国際空港株式会社、
関西国際空港用地造成株式会社

◎参加者数：168名

◎内容：

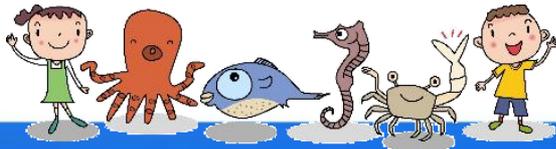
- ▼ 第1部 りんくう公園エコ・ツアー 10:00～11:30
- ▼ 第2部 関空探検ぐるっと360度大阪湾 12:30～14:30
(関空2期島から大阪湾を展望/海中映像の鑑賞)
- ▼ 第3部 フォーラム「つなげる・つながる大阪湾」 14:30～17:15
 - ・記念講演 「スナメリからのメッセージ、鳴き声を聞いて姿の見えないスナメリを調べる」
赤松 友成氏（独立行政法人水産総合研究センター 水産工学研究所）
 - ・ポスターセッション 見守りネットの仲間などが日頃の活動を紹介（24団体）
 - ・意見交換 未来につなぐ大阪湾について意見交換
- ▼ 交流会 関西国際空港エアロプラザ内にて開催 17:45～





■第8回 ほっといたらあかんやん！ 大阪湾フォーラム の開催

- ◎テーマ：SMAPro ～さあ須磨から未来に発信～
 (同時開催：スマスイボランティアフェスタ、
 スマスイ自然環境保全助成研究成果報告会)
- ◎日時：平成24年3月4日(日) 10:00～17:00
- ◎会場：神戸市立須磨海浜水族園
- ◎主催：大阪湾見守りネット、大阪湾環境保全協議会、
 神戸市立須磨海浜水族園、
 神戸市立須磨海浜水族園ボランティア(SAPV)
 国土交通省近畿地方整備局港湾空港部
- ◎目的：
- ①大阪湾の取り組みを次世代の担い手へ継承していくための第一ステップとする
 - ②中学生・高校生・大学生が主役となれる場とする
 - ③次世代を担う若者たちから全国へ発信
- ◎内容：お楽しみ交流／シンポジウム／発表者交流会
 スマスイウルトラクイズ！／バックヤードツアー
 スマスイ自然環境保全助成対象研究会発表



第8回
 ほっといたらあかんやん！ 大阪湾フォーラム

SMAPro～さあ須磨から未来に発信～

大阪湾沿岸で環境保全活動などを行っている市民団体、研究機関、行政機関の連携組織である「大阪湾見守りネット」が1年に1回開催しているフォーラムです。

同時開催
 スマスイボランティアフェスタ
 須磨海浜水族園で標示解説、須磨海岸の調査・研究、工作イベントを行っている「須磨海浜水族園ボランティア(SAPV)」が開催する1年恒例のイベントです。

同時開催
 スマスイ自然環境保全助成研究成果報告会
 須磨海浜水族園の「スマスイ自然環境保全助成制度」を活用して実施している調査・研究活動の発表会です。

みんなで
 行ってみようよ

私たちも
 発表します

交流ブース
 楽しもう

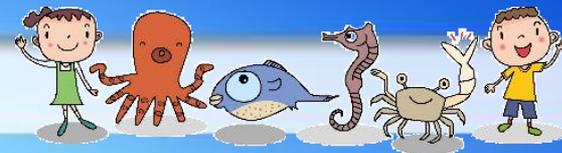
須磨海浜水族園に大集合!

日時 平成24年3月4日(日) 10:00～17:00

場所 神戸市立 須磨海浜水族園
 イベントへの参加は無料ですが別途入園料が必要です

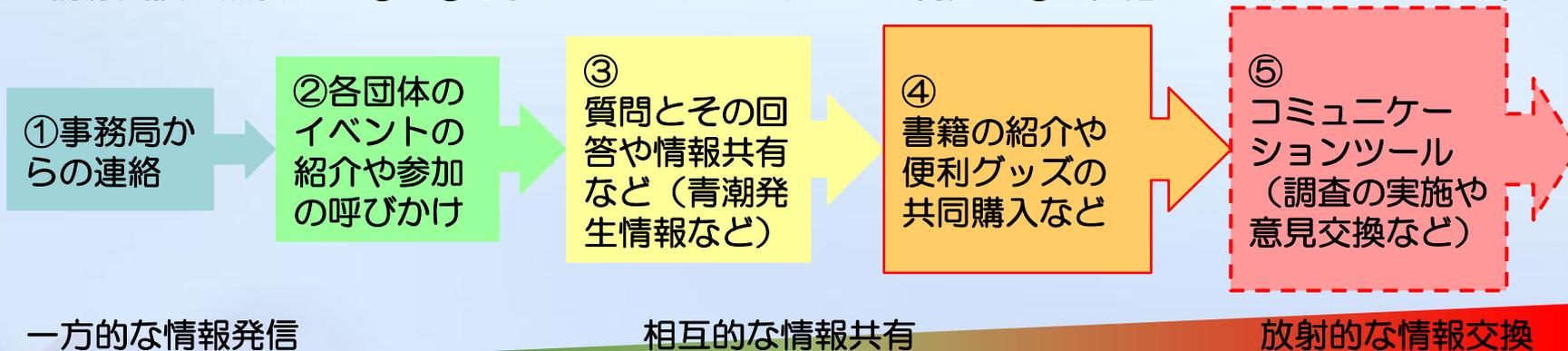
主催：大阪湾見守りネット、神戸市立須磨海浜水族園、神戸市立須磨海浜水族園ボランティア(SAPV)、大阪湾環境保全協議会、国土交通省近畿地方整備局 神戸港湾空港技術調査事務所
 後援：一般みなと総合研究財団、一般大阪湾ベイエリア開発推進機構、財 国際エックスセンター、財 瀬戸内海環境保全協会、大阪湾広域臨海環境整備センター、さんま環境財

3. 大阪湾見守りネットのこれまでの成果



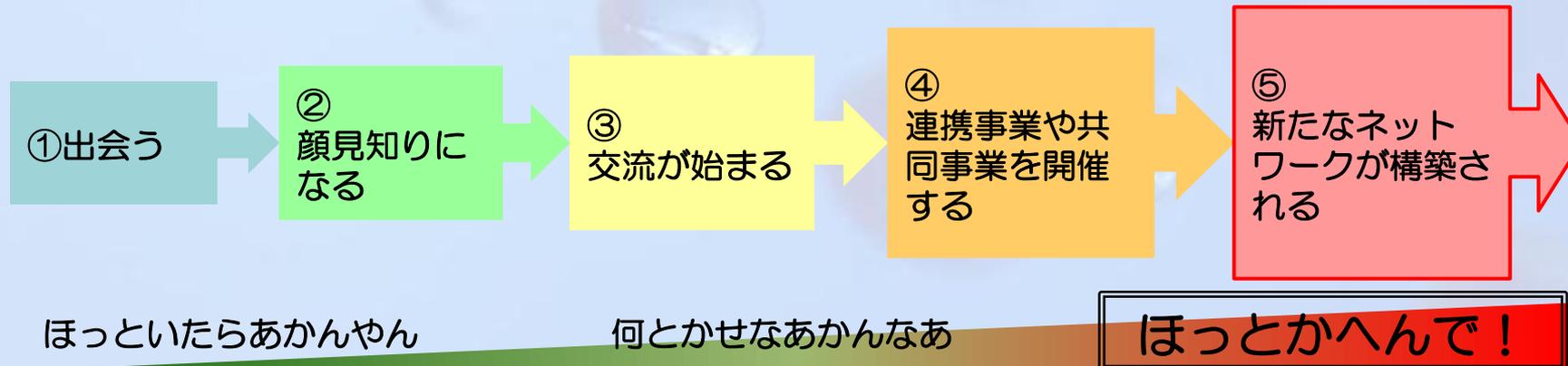
①情報の共有・交換

情報交換の熟度をLv①～⑤とするとメーリングリストは現在Lv④の段階まで成熟したといえる。



②フォーラム等による交流促進

交流の促進状況をLv①～⑤とすると現在はLv⑤の段階まで成熟したといえる。



4. 大阪湾をほっとけない人々の意見

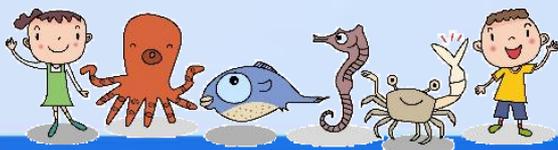
〈 課題 〉

- 大阪湾への関心が希薄
- 大阪湾に立ち入れない
- 大阪湾に関する情報が少ない

〈 主な解決策 〉

- 継続的な大阪湾の調査を行う
- 遊びや学習の場所として大阪湾を活用する
- ネットワークを拡大して連携と協働による取組を実施する

出典である「大阪湾の自然と再生」(OMUPブックレットNo.15 大阪公立大学共同出版会)は平成19年10月6日に大阪湾見守りネット総会と合同開催された大阪府立大学「堺・南大阪地域学フォーラム」の取り組みの一環で開催された分科会で参加者全員(約60人)が発表した大阪湾の現状と課題について整理したものである。



日常生活に大阪湾が不可欠であるという認識の向上が必要!

- 生きもの(人間含む)の目線から大阪湾を見よう
- 生活にとって港は不可欠。自然との共生を考えなければならない
- 自分の庭として大阪湾を取り戻さなければならない。安全保障も大切

○利用者(釣り人等)のマナー改善

あるべき姿を探る視点で大阪湾を知る!

- 海の中のことをもっと知ろう
- 海側(大阪湾)から陸側を見よう
- 河川・港湾の底質汚染を考えよう
- 森・川・海の循環・連携が不可欠
- 陸域と海域の物質循環のモデルケースを知ろう

保全と活用によって、よりよい大阪湾の自然環境を次世代へ継承!

よりよい自然を守ろう!

- 大阪湾ならではの環境特性をもう一度みんなで考えよう
- 大阪湾をより深く知るために由良(現場)を見に行こう
- まず、今あるよりよい自然環境を守ろう

継続的に大阪湾を探る!

- 環境改善の状況を把握するための長期モニタリングが必要
- 見守りネットのメーリングリスト等を活用して、ネットワークを使って自然情報を集積
- 大阪湾一斉調査
⇒みんなが楽しく参加できる調査が必要

みんなの知恵を結集してあるべき姿を計画する!

- 大阪湾のあるべき姿を計画しよう
- 大阪湾再生に向けてみんなの知恵を結集しよう
- 一部の人が密室で考えるのではなく、みんなで考えることが大切
- 12/15(土)に大阪湾再生会議シンポジウムを開催

実態の把握
計画への反映

活動の展開

遊びや学習の場として大阪湾を活用しよう!

- 子どもが遊べる大阪湾を取り戻そう(場、プログラム)
- 大阪湾が子どもと自然をつなぐ役割を担ってほしいようにしよう
- 主に子どもを対象とした環境学習プログラムを構築しよう
- 子どもに自然で美しい貝殻万華鏡などを伝えたい

計画の立案・実行に向けた有機的な連携強化

さらなるネットワークの構築を!

行政との対話を!

- 行政担当者と飲み会をしよう
- 知事や首相に大阪湾を売り込む
- 行政による持続的バックアップ
- 行政レベルでの横のつながり(基盤づくり)

海遊館海洋研究所(仮)などとの連携や活用をしていきたい

- 大阪湾見守りネットをもっと広げよう
- 地域単位(コミュニティ)で連携して取り組む必要がある
- インターネットを活用して都市の住民へ大阪湾をPRすることが重要
- 人のつながり・ネットワークを大切に活用しよう

学校との連携強化!

- 学校と協力してみんなで子どもを育てよう
- 学校で地元の自然環境を教えよう(伝えよう)

5. フォーラムでのアンケート結果から

第7回大阪湾フォーラムのアンケートに回答した64人（回収率39%）のうち、各質問の回答を整理したものである。

（1）大阪湾に望むこと

③豊かな海・親しみのある海に該当する内容が11人で最も多く、次に⑥環境整備が9人となっていた。

また、その他の意見としては「熱意」や「自然の利用」「頑張っているNPO、団体への助成金の提供」などであった。（回答者数：45人）

表 行政への期待の集計結果

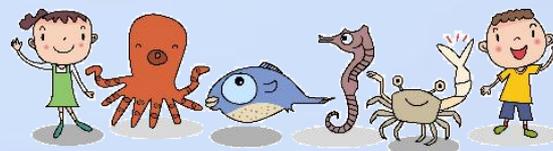
区分	件数
①情報提供・情報共有	10
②行政間の連携	5
③施策の検討・見直し	11
④環境整備	3
⑤予算確保	3
⑥市民活動の支援	8
⑦連携した取り組み	6
⑧その他	2

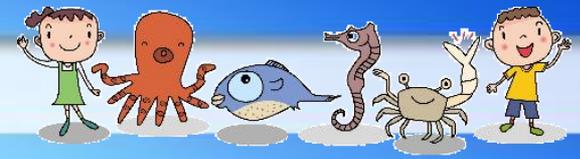
表 大阪湾に望むことの集計結果

区分	件数
①情報提供・情報共有	6
②（市民）意識の向上	6
③豊かな海・親しみのある海	11
④水質の改善	6
⑤生物多様性の確保	6
⑥環境整備	9
⑦連携した取り組み	4
⑧その他	5

（2）行政への期待

③施策の検討・見直しが11人で最も多く、次に①情報提供・情報共有が10人となっていた。なお、⑥市民活動の支援も8人と多く、⑤予算確保も市民活動を意図しているとするならば、⑤⑥をあわせると11人と多かった。（回答者数：37人）





(3) 市民・産・学・官が連携した環境再生の取り組みに必要なこと

②情報交換・情報共有・相互理解に該当する内容が14人で最も多く、次に④市民の意識向上・参加促進が10人となっていた。(回答者数：41人)

表 市民・産・学・官が連携した環境再生の取り組みに必要なことの集計結果

区分	件数	同じ区分に含めたその他のキーワード
①広報・情報発信	7	地域の宣伝活動、多くの人に知ってもらう、周知活動
②情報交換・情報共有・相互理解	14	コミュニケーション、意見交換、交流、お互いを理解、お互いが感謝しながら取り組む、遠慮なく意見が言える
③共通の目標	4	目的の共有、お互いに協力できることを持つ、目指すところが同じ
④市民の意識向上・参加促進	10	人、個人の参画、幅広い市民の参加、皆が感心を持つ、興味のない方、関係の無い方々にも多く参加、広い年齢層の活躍、若い力
⑤コーディネーター	5	人、仲介、中間支援の団体
⑥具体的な取り組み	7	活動、取り組みの具体案、集まること、シンポジウムや講演会、機会づくり、キッカケづくり、体験型イベント
⑦取り組みの継続	3	回を重ねる、持続性を保つための取り組み、モチベーションの持続
⑧活動できる場の整備	2	市民が利用できる場の再生、協働できる場の確保
⑨予算確保	2	費用確保の方策、産・官からの資金援助

6. 今後の瀬戸内海の保全に向けて



大阪湾見守りネットのこれまでの検討や経験から、今後の瀬戸内海の保全については以下のように考えます。

